

大学名：玉川大学教育学部

ASPUnivNet の 4つの機能	評価項目	事例記述
学校のユネスコスクール加盟を支援します。	1. ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	東京都、神奈川県、千葉県のかかなりの数の学校からユネスコスクール加盟支援についての相談を受けた。加盟手続きや加盟のメリット、加盟に向けての留意点等について情報提供し、学校としてユネスコスクール加盟への準備体制を整えられるように支援的に関わった。
	2. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	チャレンジ期間実施校との接触は頻繁に持ち、教員研修を行った。カリキュラムや学習活動についてもできるだけ丁寧に相談に応じるように心がけた。ASPnet 加盟申請手続きについて、できるだけチャレンジ校に理解して頂き、加盟への意欲を維持して頂けるように工夫した。
	3. 地域の加盟済のユネスコスクールに向けてESD/SDGsをリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	担当地域のユネスコスクール加盟校には教員研修会や出張講義（出前授業）等を積極的に行った。またESD/SDGsを中心とした学習活動のあり方や行内体制についての定期レビューを行い、ユネスコスクールに求められる質や役割について、教職員との協議や説明会を行った。
大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します。	1. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援（資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど）を行うことができた。	八千代市の小中学校や東京都立山崎高等学校をはじめとして担当地域のユネスコスクールに対しては、学校側からの求めに応じて、ESD 教員研修会やSDGs入門講座などをいくつか開催した。玉川大学のもつ教育・研究資源を学校現場に効果的に活用して頂けるよう心がけた。
	2. 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	第1回～第3回の成果をふまえ、2023年7月30日に東海大学で開催される「第4回ユネスコスクール関東ブロック大会」に共催大学として参加する予定である。また、東京都立山崎高等学校、実践女子学園中学校・高等学校および八千代市立の小中学校数校との共同ワークショップも実施計画を進めている。
	3. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	町田市・相模原市の学校との協働で、SDGs や ESD, GCED, 「平和と非暴力の文化」を含む「ユネスコ検定」の開発を進めている。教材としての活用とともに、ユネスコスクールとユネスコ協会との連携強化の資源としての活用も視野に入れている。
地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。	1. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	町田市教育委員会および町田青年会議所と連絡を取り、ユネスコスクールについての理解と支援を得られるように試みた。また東京都ユネスコ連絡協議会の研修会および青年研修会にてユネスコスクールについての実践報告と広報を行った。

	<p>2. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。</p>	<p>東京都ユネスコ連絡協議会の企画運営する「関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 東京」(2023年9月3日開催)にて、青年活動研究会を企画し、地域の多様なステークホルダーと連携して、ユネスコスクールにおける次世代育成の試みを進めている。</p>
	<p>3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。</p>	<p>多摩市教育委員会とはユネスコスクールに関する基本協定を結び、地域連携を進めている。京都外国語大学とはASPUnivNet ネットワークを活用して共同研究および大学間交流授業を実施しており、ユネスコスクール推進のための大学間連携の可能性を追求している。</p>
<p>国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。</p>	<p>1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた</p>	<p>日本国際理解教育学会の企画「ユネスコカフェ」にてユネスコ本部職員田村謙治氏、諸橋淳氏、斎藤珠里氏との交流を行い、ユネスコスクールの国際動向についての情報提供をして頂いた。ベルリン・ユネスコスクール国際会議(2023年6月6日～8日)にてASPUnivNet の取り組みについて世界のユネスコスクール関係者に紹介する。</p>
	<p>2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。</p>	<p>ユネスコ・バンコク事務所のアジア太平洋地域 GCED ネットワークの一員として、また APCEIU 主催の「北東アジアにおける平和教育共通カリキュラム開発プロジェクト」への参加を通じて、アジア太平洋地域とくに韓国のユネスコスクールと交流と協働を展開することができた。</p>
	<p>3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。 (例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)</p>	<p>ユネスコ本部の実施する「グローバル ASPnet ウェビナー会議」等を通じて海外のユネスコスクールとの交流を行い、国際協同プロジェクトにも参加している。またユネスコ本部、ユネスコ・バンコク事務所、フィリピン教育大学および APCEIU が主催するさまざまな国際協働プログラムに参加協力している。今後に向け定期的な交流や協働ができるよう海外連携ネットワーク作りの作業を一層積極的に進めてゆきたい。</p>
<p>その他の活動</p>	<p>1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。</p>	<p>教育学部のカリキュラムポリシーに「ESD/SDGs 学習の推進」が謳われたことを受け、教育学部内にユネスコスクール推進チームが結成された。また学部改革に向け、ESD/SDGs 学習の推進に焦点を当てた教師教育プログラムの開発を進めている。とくに総合学習における授業モデルの構築を積極的に進めている。</p>
	<p>2. 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。</p>	<p>現在、教育学部のゼミでユネスコスクールに関わる教育活動を行っている他、「総合的な学習の時間の理論と方法」および「世界の教育と文化環境」などの教職科目においてESD/SDGs 教育の指導力育成に焦点づけした内容が導入され、ユネスコスクール加盟大学としてのカリキュラム構築が進められている。</p>
	<p>3. 調査研究活動でユネスコスクールに関連し</p>	<p>ASPUnivNet 共同研究プロジェクトとして「ユネスコスクールにおける教職員の</p>

	た調査研究を行うことができた。	動機付けを高める要因に関する研究」を提唱し、福山市立大学、信州大学と協同しながら学校での聞き取り調査を進めている。ユネスコスクールにおける教育の質を高める要因として教職員の動機付けに焦点を当てた研究であるが、何が教員の意欲を高めるかについて興味深いデータが得られつつある。
	4. 自由記述	日本のユネスコスクールと世界全体の ASPnet ネットワークをもっと密接につなぎ、距離を縮めていく活動を行ってゆきたいと考えている。とくに次世代育成を活性化させるために、ユネスコ本部とも連携しながら、ASPUnivNet が先導してSDGs 促進のためのフラッグシップ的な国際協同プロジェクトを創設することを提案したい。